

現実の衝撃に対して
「かわす」ことは「衝撃吸収」
以上に大切なんだ。



「かわす性能」は、 「衝撃吸収性能」とともに頭を護る大切な処理。

「かわす性能」頭を護るための取り組み④

「衝撃吸収性能」なくして、ヘルメットの意義は語れません。しかし、転倒の際は、いかなるヘルメットであれ、「かわす性能」と「衝撃吸収性能」のふたつの役割で、頭を護っています。

「かわす性能」というフォームは、数値で表現できない働きですが、転倒時の障害物を受け流しやすいフォームこそが、実はヘルメットの活躍に大きく関わっているのです。

多くの場合、私たちは規格試験以上のスピード(※)で走っています。現実の転

ヘルメットは必ず、
「かわす」と「衝撃吸収」で
護っているんだ。

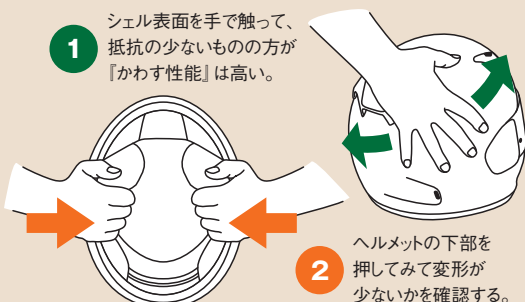


※ヘルメット安全規格の「衝撃吸収試験」の落
下高さから換算される時速は、世界で最も厳し
いとされるスネル規格においても、わずかに約
27.9km/h(衝突速度7.75m/sを時速換算)。

倒で受ける計り知れない大きな衝撃は、ヘルメットでできる吸収能力を超え、どんなに優れたヘルメットでもすべてを受け止めることは困難です。

万が一の転倒の際、頭を護るには、頭を壊そうとするエネルギーを頭に向かわせないことが一番です。「吸収」する前に、エネルギーの大半を受け流す。想像を超える現実の衝撃に対処するために、この「かわす性能」というフォームは、「衝撃吸収性能」以上に大切な役割なのです。

【ぜひとも店頭で試してみてください】『かわす性能』を確認してください



1 シェル表面を手で触って、抵抗の少ないものの方が「かわす性能」は高い。

2 ヘルメットの下部を押してみても変形が少ないかを確認する。

アライは、様々な手段を講じて「かわす性能」を追求し続けています。しかし、「かわす性能」は、規格ラベルのように目で確認することはできません。唯一、自分で確かめる方法があるとするならば、シェル表面を手で触って、抵抗の少ないものの方が「かわす性能」は高い、と言えるかもしれません。

そして、規格外であるために見落としがちなヘルメットの下部。そこを押し潰すように手で確認してみてください。変形の少ないものの方が、現実の転倒時に変形しづらく、「かわす性能」も高いといえましょう。ぜひ、ご自分で確認してみてください。